

郷土資料館だより

Vol.30. No.3
2008.3.15

「郷土資料館だより」の記念通巻第90号発行によせて

「郷土資料館だより」を発行して今回で90号になります。記念すべき第1号は、昭和53年8月1日に「郷土館だより」(58号から名称変更)として発行され、今年で30年になります。その間の「だより」を紐解くと、多くの諸先輩職員の努力により、企画展や講座等の経過が引き継がれて今日に至っていることをあらためて感じます。これからも「郷土資料館だより」を通じて郷土資料館の郷土研究や企画展、講座を紹介し、当館の活動内容を報告すると共に郷土資料館を多くの皆様に利用していただければ幸いです。(館長 水谷盛彦)

企画展 「☆み~つけた!暮らしから生まれた人形と生活の中の美☆」

●前期開催期間 平成20年3月15日(土)~平成20年6月1日(日)

郷土資料館では、開館以来、三島市民をはじめ多くの方々から寄せられた寄贈品を収蔵してきました。

今回の企画展では、これらの収蔵資料の中から前期と後期に分けて紹介していきます。

前期開催期間中は、旧暦の上巳の節句と端午の節句の時期にあたります。この期間、上巳の節句には雛人形を展示し、端午の節句には五月人形を展示します。雛人形も、五月人形も、年に一度ほんの短い間しか飾られることのないものですが、子供の健康を祈って大切にされて



雛人形

てきました。いつまでも皆の宝物であり、時が経ってもかわいらしいものです。その他、画家の瀬川真氏の絵葉書や三島市出身の画家の描いた絵葉書などを展示しています。

後期は「昔の道具」について学ぶために来館する小学生を対象として、生活道具を紹介します。

後期：「☆これなーんだ?昔の道具☆」

平成20年6月15日(日)~平成20年8月31日(日)



雛道具

刊行物案内『三島宿関係史料集2(朝鮮通信使関係)』

朝鮮からの外交使節である朝鮮通信使は、江戸時代に12回ほど日本を訪れました。そのうち10回は東海道を往復していますので、三島も通っています。

本史料集は、当館所蔵の朝鮮通信使関連文書について古文書読習会と三島宿研究会の会員が解説にあたり、代官からの触書や宿泊旅館の修理目論見書など、通信使を迎えるにあたって三島宿の対応の様子が見える貴重な史料10点を収録しました。

ご興味のある方は是非ともご覧ください。(3月末日刊行予定。頒価未定)



御尋二付申上候書付
(朝鮮人通行に付)

企画展 「楽寿園の名宝」 報告

●平成19年10月28日(日)～平成19年11月30日(金)

今回の企画展は、楽寿園の歴史を振り返りながら、それぞれの時代に楽寿園を所有した人物の関係資料を展示紹介しました。

小松宮彰仁親王の関係では、宮内庁書陵部蔵の『小松宮日記』をはじめ、日本赤十字社の所蔵する貴重な資料を借用展示し、また

李王世子の創設された李王賞についても関係資料を展示しました。

緒明家については同家の由緒と楽寿園開園までの経緯を紹介すると同時に、襖絵など縁の品々を展示しました。

奇しくも去年は楽寿園が開園してから55周年にあたり、菊祭りと同様開催したことで、たくさんの方々に見ていただくことができました。

なお、今回の展示は、緒明家より多大なるご協力をいただき、ここにあらためて感謝の意を表します。



小松宮日記など



李王賞の文箱

企画展関連講演会

「千年桜に想いを込めて」 報告

- 平成19年11月24日 (土) 14:30～16:00
- 講師 木村圭吾氏 (日本画家)
篠原 弘氏 (美術評論家)
- 会場 楽寿園内「楽寿館」楽寿の間 参加者37人



展示解説の様子

躍動感溢れるエネルギッシュな画風で人々を魅了し続ける日本画家の木村圭吾氏と美術評論家の篠原弘氏を講師にお迎えし、楽寿館内の楽寿の間にて講演会を実施しました。

会場となった楽寿の間は、滝和亭画「千羽千鳥図」や野口幽谷画「池中鯉魚図」「格天井花卉図」など、明治期の日本画壇の第一人者が描いた襖絵や装飾絵画に囲まれています(いずれも三島市指定文化財)。これらの作品に即しながら、お二人の対談形式により、前半は明治期の日本画壇の状況や日本画の創作方法等の解説がありました。

また後半には木村氏の作品や創作態度、桜に対する想いなどの話にも言及され、参加者には大変好評を博しました。



講演の様子 (右・木村圭吾氏/左・篠原弘氏)



左 同

「ゆめワーク三島」報告

- 中郷中学校（10月31日～11月2日）
- 錦田中学校・北中学校（11月6日～11月8日）

三島地区の中学生職場体験事業「ゆめワーク三島」として中郷中学2年生4名と錦田中学校・北中学校2年生4名が来館しました。

中郷中の皆さんには「三島宿風俗絵屏風」（複製）の解説板を作成してもらいました。作成にあたっては辞書や参考書を使い、今まで知らなかった三島宿の歴史を勉強し、分かりやすく工夫してもらいました。

錦田中と北中の皆さんには刊行物整理作業と企画展「楽寿園の名宝」の展示替えを補助してもらいました。特に展示替えの際には、明治期に描かれた杉戸絵を前に緊張した面持ちで作業に取り組んでいました。

これらは普段の学校生活では体験できないことですが、ここで経験したことを将来的に何かの形で役立ててもらえればと館員一同願っています。



郷土資料館3階展示室で「学芸員の一品」として展示中の収蔵資料について紹介します。
(担当：政木愛子)

すみ つぼ ～ 墨壺 ～

墨壺は、大工さんや石工さんなどが、材料に直線を引いたり水平を測るために用いる道具です。木で出来ており、大きさや形は様々です。なかには亀や龍の美しい彫刻が施されているものもあります。昔は大工さんが自ら作ったもので、デザイン力や技量の証でもありました。それぞれ独特の魅力があり、職人のこだわりが感じられます。墨壺の起源は、明らかではありませんが、古代エジプトで生まれ、中国において改良され日本に伝わり今のような「墨壺」になったと考えられています。



富士・沼津・三島三市博物館共同企画展 「遙かなる東海道～富士・沼津・三島の記録～」報告

●平成19年12月9日(日)～平成20年2月24日(日)

今回で11回を数える富士・沼津・三島の三市博物館共同企画展ですが、その第11回は「東海道」をテーマに取り上げました。ご承知のとおり慶長6年(1601)、徳川家康によって江戸を起点とした五街道が整備され始め、その中でもとりわけ東海道は京都と江戸を結ぶ重要な役割を担っていました。このため、浮世絵、紀行文などにも多くの題材が取り上げられています。

東海道53次のうち静岡県内には22の宿場が存在し、おなじみ歌川広重の東海道五十三次シリーズや十返舎一九の『東海道中膝栗毛』などには吉原・原・沼津・三島の各宿場をはじめ、街道の名所名物が数多く描かれております。今回の展示では、江戸時代から伝わる静岡県内の街道名物を紹介しました。また、慶長12年(1607)の来朝からちょうど400年が経過した朝鮮通信使についても、静岡県朝鮮通信使400周年記念事業推進委員会と共催で紹介しました。



三島の名物「三嶋曆」



朝鮮通信使衣装



街道の名物

富士・沼津・三島三市博物館共同企画展関連講座 「朝鮮通信使について学ぼう」報告

- 第1回 1月20日(日)
 ギャラリートーク 参加者10人
 「チマチョゴリを着てみよう」 参加者35人
 ビデオ上映 参加者 23人

午前中は静岡市の作成した通信使に関するビデオの上映を中心に行いました。展示解説を挟んで午後は朝鮮民族衣装チマチョゴリの着用体験を行い、大人用5着、子供用3着を用意し、気に入った衣装を着用してもらいました。さらに着用した姿をインスタントカメラを使って撮影し、できあがった写真を贈呈したところ、参加者には大変好評でした。



通信史の衣装で宣伝

なお、着用にあたっては在日本大韓民国民団静岡県東部支部の方々にお手伝いいただきました。

- 第2回 2月3日(日) 13:00～
 ギャラリートーク 参加者5人

前回に引き続き、企画展「遙かなる東海道」について、展示解説を行いました。



ビデオ上映の様子



チマチョゴリ体験



展示解説の様子

●第3回 2月9日(土) 13:30～15:30

講演会「三島と朝鮮通信使」

共催 朝鮮通信使400周年記念事業推進委員会

講師 北村欽哉氏(朝鮮通信使研究家)

会場 市民活動センター 参加者32人



朝鮮通信使400周年記念事業推進委員会ご協力のもと、朝鮮通信使研究家として知られる北村欽哉先生を講師としてお迎えし、「三島と朝鮮通信使」と題して講演会を開催しました。講演内容は、江戸時代の鎖国の概念と通信使の概要を三島との関係を織り交ぜながら、わかり易くお話くださいました。三島との関係については、長円寺(芝本町)に伝存する朝鮮通信使から賜ったとされる袈裟と数珠のこと、唐人町のこと、『豆州志稿』の著者秋山富南が通信使と熱心な詩文の応酬をおこなったことなど、大変興味深いものでした。ことに、接待役に大名を配置した事に触れ、三島においては赤穂浪士事件で知られる赤穂藩主浅野長矩と事件後に赤穂城の受城使を務めた備中国足守藩主木下肥後守が、奇しくも朝鮮通信使の接待役として共に三島で出迎えていることなど、ふだん聞くことのできない貴重なお話をしていただきました。



●第4回 2月16日(土) 9:30～12:00

本場韓国キムチを作ろう

講師 ユン・インスク氏

会場 生涯学習センター料理講習室 参加者17人

富士・沼津・三島三市博物館共同企画展「遥かなる東海道～富士・沼津・三島の記録～」の関連講座として「本場韓国キムチを作ろう」を開催しました。ユン・インスク氏は韓国籍の三島市民で、三島市国際交流協会の会員として、現在、韓国語講座の講師も勤められています。

韓国の方から直接本場仕込の作り方を教えていただける機会となり、韓国の宮廷でのキムチを漬ける時の包み方など、韓国の方でなければわからない貴重なお話をお話くださいました。参加者からは、「調理している間も楽しく、講座が終了した後の漬かったキムチを食べる楽しみもあり、とてもよかったです。日本の野菜を使っていろいろとアレンジすることも教えていただき、とても参考になりました。」といった反響がありました。



はくさいの漬け方説明中



野菜をきざむ様子



漬け込み風景



キムチの切り方伝授



寄贈資料紹介

平成19年10月から平成20年1月中旬までに、次の方々からたくさんのご寄贈の協力をいただきました。ありがとうございました。(50音順・敬称略)

河合 英治 三島市	教科書	14点	小松 芳和 三島市	蓑	2点
	三嶋暦	1点	坂本 正俊 三島市	藁細工(担ぎ俵)	1点
	静岡県常会報	2点	柴田喜久雄 静岡市	複製三四呂人形(水辺興談)	1点
	宮町宅地地図	1点	鈴木 貞春 三島市	水車の菌車	1点
	軍事郵便葉書	5点	土山早規子 三島市	第一回静岡県産牛共進会功労賞	1点
	国防婦人会たすき	2点		分娩報告書	1点
	日章旗(小)	1点	平澤 早苗 三島市	書籍『世界の美術』	20点
	神風鉢巻	1点		書籍『裾野市史』	1点
	写真	2点		書籍『尾西市史』	1点
	衣料切符	1点		鉛筆削り	1点
木下 光江 三島市	葉書	66点	星田 和子 東京都	写真	3点
広報広聴課 三島市	市政カレンダー	1点	益田 和子 沼津市	文箱	1点
小林 忠蔵 三島市	ねこびん	1点		賞状	1点
	棹秤	1点	その他	日本人形	1点
	算盤	2点			
	一斗枵	1点			



ねこびん



複製三四呂人形
(水辺興談)



文箱

『三島市郷土資料館研究報告1』(3月末日発行 頒価未定)

〔内容〕刊行にあたって(館長・水谷盛彦)河合家文書翻刻解題(学芸員・鈴木隆幸)

三島茶碗についての考察と所感(学芸員・渡邊美幸)獅子神楽調査報告(学芸員・政木愛子)

編集後記

手作りの本場キムチは、辛いなかにも甘さのある、とてもおいしいキムチでした。

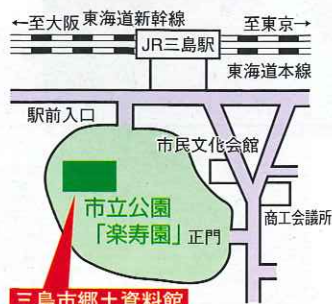
今年度最後の郷土資料館だよりは記念すべき第90号となりました。来年度も様々な企画を計画しておりますのでご期待ください。(M)

利用案内

- 休館日
毎週月曜日
(祝日の時は翌日)
12月27日～1日2日

- 開館時間
午前9時～午後5時
(4/1～10/31)
午前9時～午後4時30分
(11/1～3/31)

- 入館無料
(ただし、楽寿園入園の際に有料)



- 三島駅(南口)から徒歩5分。
市立公園楽寿園内

郷土資料館だより vol.30 No.3 (第90号)

発行日 平成20年(2008)3月15日
(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館
〒411-0036
三島市一番町19-3 楽寿園内
TEL 055-971-8228
FAX 055-981-3730

E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp

URL: <http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/>

発行 三島市教育委員会